

29-5 経営協議会議事概要

日時 平成29年11月24日（金）13:30～15:35

委員 駒田学長（議長）

青木，志田，銭谷，高木，向井，村本，渡辺

山本，鶴岡，尾西，加納，尾藤，伊藤 各委員

列席者 富樫，野崎，橋本，松田，吉本 各副学長

服部監事，山中監事

◎議事概要の確認

29-4 議事概要(案)について，了承された。

I 審議事項

なし

II 報告事項

1. 平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果について

尾西理事から，「資料：報-1-1，1-2」に基づき，全体評価として，本学は「重点支援1」地域創生大学として法人の基本的な目標に沿って計画に取り組んでいることが認められている旨の報告のほか，戦略性が高く意欲的な目標・計画の取組状況，項目別評価，教育研究等の質の向上の状況についての報告があった。

また，今年度より評価項目に「特筆」と「順調」の間に「一定の注目事項」が設けられており，順調に留まるのではなく一定の注目事項に掲載されるよう取り組みを強化していく旨の付言があった。

<主な意見>

○6段階評価となったなかで順調に進んでいるという評価については大学運営としては適切に行われていると思うが，今後は一定の注目事項に取り上げられるよう努力いただきたい。

2. 「目指すべき人材像」の策定と「3つのポリシー」の点検について

山本理事から，「資料：報-2，参考資料」に基づき，前回の経営協議会（平成29年9月22日開催）での意見交換を経て，更に学内での検討により修正した目指すべき人材像（案），全学DP修正案についての説明があった。

<主な意見>

○自大学は、医療と福祉であり学科が限られており、輩出する人材像というのは決まっているので非常にまとめやすい。

三重大大学の場合は学部が多岐にまたがっていることもあり、ひとつにまとめるとするのは非常に難しいと思う、ひとつの学部を対象に考えると他の学部に合わなかったり、総合的に考えると非常に難しいのに上手くまとめられていると思う。

○4つの力の中の幅広い教養とか専門的知識が、幅広い意味では考える力のベースになる部分であると思うが、ここをもう少し論理的・批判的思考力であるとか問題解決能力とか、或いは決断力というものがここに入ってくるのかと感じる、どちらかと言えば教養知識というのは、これから社会人になっていく上でのベーススキルであり、そういう意味ではジャンル分けをすれば生きる力に入っていくのかと思う。

○大学は学生をどのように育てるかという考え方であるのでこれでいいかと思うが、学生の立場に立った時に、自分の考え方を各学生が持てるようにする。

その考え方を持った上でそれを自分の信念として仕事を実行するという方向性を学生が持つということが大事であると思う。

○「三翠を成す」というところの説明は非常に分かりやすいが、それを具体的に展開例となった時に、他の大学と変わらないようになってしまっているのは非常にもったいないと思うので、私は信念を持つというところで、どういう信念か、どこからきているのかというようなところを、三翠のところのどういう所からきているのかが分かるようにすれば、三翠との繋がりがはっきりしてくるのではないかと思う。

また、他の大学とは違う信念・英知・理想というところは三翠からきているのだから、しっかりと分かるような表現とし、関係性がはっきりと分かるようにするとよいのではないかと思う。

3. 三重大大学の事務職員像について

尾藤理事から、「資料：報-3」に基づき、6つの項目から構成される「三重大大学の事務職員像」についての報告があった。

4. 三重大大学におけるインターンシップの取組強化について

野崎副学長から、「資料：報-4、参考資料」に基づき、三重大大学におけるインターンシップの取組強化について7月-9月期における中間報告があった。

<主な意見>

○受け入れ側（企業）も三重大学の学生の受け入れにふさわしい職場を提供すべきであると思っている。

→文部科学省，JASSO（日本学生支援機構）の色々なインターンシップに関する研修会に参加しているが，大学側がもっと積極的にインターンシップの内容（コンテンツの作成も含めて）に関わっていくべきであるといったことが言われている。

今年はまだそこまで力が及んではないが，多くの企業の実像が今回の冊子で分かるので，多くの学生が行く企業であるとか，重点的に県内の様々な中小企業を含めてコンテンツを一緒に作りながら学生を外に出したいと考えているのでご協力願いたい。

○最近では三重県内，特に愛知県内，日本全体がそうであると思うが，企業の海外進出が盛んであり，東南アジア，中国へ多く進出している。

留学と同レベル感でインターンシップが出来るかということ非常に難しいと思うが，4つの力を養っていくうえでも国際化のためにも海外インターンシップはこれからのインターンシップの選択肢としてはかなり重要であると思う。

5. 三重大学の防災訓練について

防災室長から，「資料：報-5」に基づき，11月7日（火）に実施した三重大学の防災訓練について，本年度より導入した安否確認システムを利用した学内避難訓練等の報告があった。

6. その他

（1）環境報告書について

加納理事から，席上配付された冊子及び概要版により環境報告書についての報告があったほか，科学的地域環境人材育成事業（サイレッツ）についての説明があった。

（2）次回開催について

平成30年1月19日（金）15：00から開催することを確認した。

Ⅲ 意見交換

1. 三重県のイノベーションを触発し続ける仕組みについて

鶴岡理事から，「資料：意-1」に基づき，中部産業振興協議会での検討された「中部圏のイノベーションを触発し続けるための仕組みに

ついて」の報告があり、「中部圏」を「三重県」と読み替えて意見をいただきたい旨の説明があった。

また、学長から、本日欠席委員から事前にいただいている意見の紹介があった。

<主な意見>

○三重県を含め中部圏にはIT関連のベンチャー企業は少なく、ベンチャー企業の財産は人であり、若い人達がそこで生活できる（育つために）環境整備が必要となり、そこが整備されないと企業そのものが存続できないという問題がある。

そういう面では若い人達がそういうところへ集まってくる仕組み作りを地域にしていかななくてはいけないと思う。

ベンチャー企業を育てるにはアメリカのシリコンバレーのように失敗を認める寛容な仕組み（認める社会）を作っていないとベンチャー企業は育たないと言えると思う。

融資においても実績のない会社にもお金を出せる仕組みづくりの整備も必要であり、ある程度のベンチャー企業がそれなりの基盤ができ、儲けを出せるような状況になれば、例えば「〇〇特区」のような税制面での優遇措置も考えて行く必要もあると考えられる。

以上のような色々な条件をクリアしていく必要があることより、地方でベンチャー企業を育てるのは非常に難しいことであると思う。

○環境づくりは非常に重要ではあると思うが、人づくりが大学にとっては特に大切であるのでイノベーション学研究科でベンチャー企業を生み出す能力をつけるような、特徴的なDPを策定してみてはどうかと思う。

○インターネットによるイノベーションの時代が来ていると思っており、イノベーションは仕組みではなく、教育であり大学での教育ではもう遅く小さいときからの教育が必要であると思う。

以上